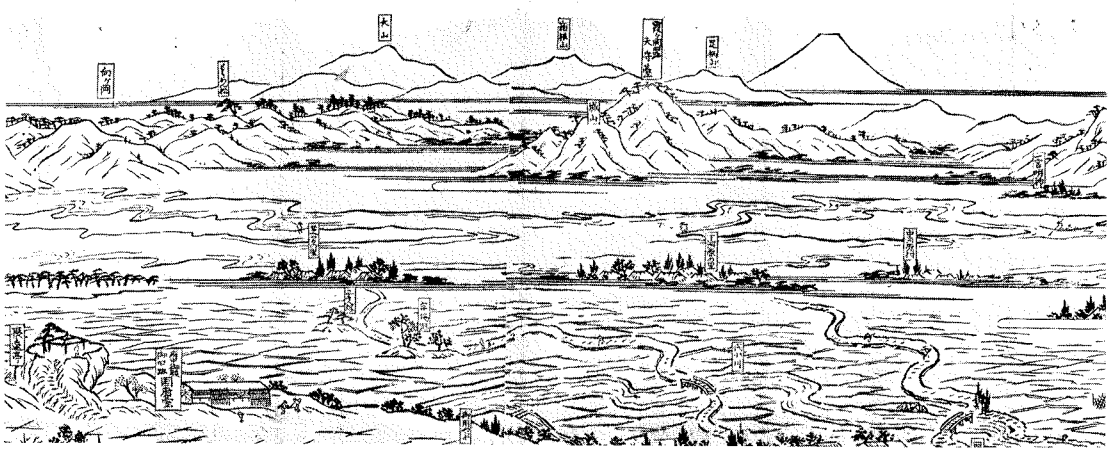
はくぶつかん　プラネタリウム　古民家園

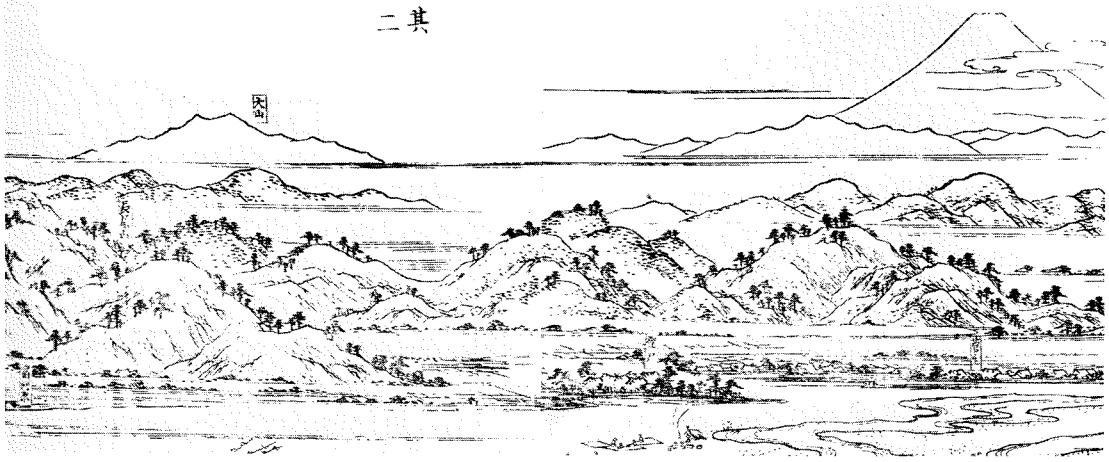
# あるむぜお

府中市郷土の森だより　No.38　al museo



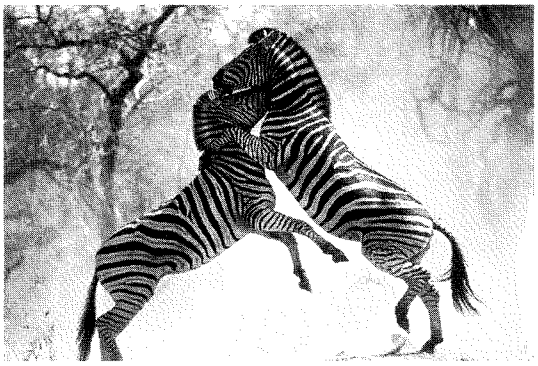
**多摩川の風景6　山を望む・大山**

右から富士山、足柄山、箱根山、大山…。多摩丘陵の向こうから、多摩川の流れをはるかに見守ってきた山々があります。なかでも大山は、流域の人たちの生活に関わりが深い、信仰の山でした。大山のあたりに黒い雲が出て雷が鳴ると、必ずすぐに大粒の雨が降りだすと言われ、あわてて農作業の片付けを始めました。府中のあたりからだと南西方向に約34キロメートル、海抜1253メートルの大山(神奈川県伊勢原市)は雨乞いの神様・農業の神様と考えられたのです。大山講を作り、毎年大山詣でをしてきた村もたくさんありました。その参詣ルートである大山道は、南関東の各地に遺ります。府中の大山道を行く旅人は、ハケの下り坂(現・府中市西府町)にさしかかった時に、多摩川とともに見渡せる風景に歓声をあげたことでしょう。上は『**武蔵府中国府台勝概一覧**』、下は『**江戸名所図会**』。(○)



# '96 ワイルドライフ写真大賞展

1月25日(土)～3月31日(日)



『'96 ヤングワイルドライフ写真大賞』受賞作品(17才以下の部門)

昨年に引き続き今年も郷土の森博物館でワイルドライフ写真大賞の96年入選作品（1996年秋に決定）をイギリスをはじめ世界主要各国と同時開催します。

本展覧会はあらゆる角度からとらえた自然界の姿、その素晴らしさ、そして今地球が抱えている諸問題などを皆様にお伝えし共感していただけるものと思います。また、今回は大賞などの特別賞受賞作品や各部門上位入選者作品85点を写真パネルでご紹介する他、佳作入選作品約40点を含む全入選作品をスライドで展示します。世界のネイチャーフォトグラファーの優秀作をぜひご覧ください。観覧料：大人300円・中学生以下無料（入園料が別に必要）

# 第十回 郷土の森 梅まつり

一月下旬～三月中旬

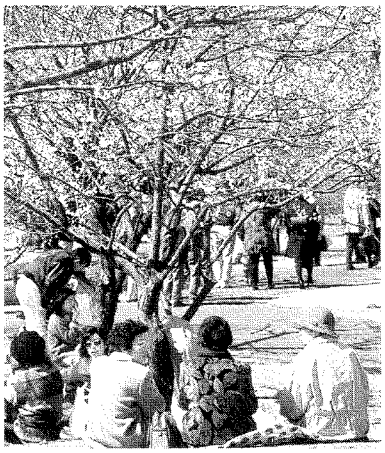
郷土の森の梅まつりも回を重ねて10回目となります。約70種、1300本の梅がはなつ早春の香を満喫してください。また、期間中には色々な催しが開催されますので詳しくは下記をご覧ください。なお梅の開花状況によって開催時期を変更する場合があります。

**梅まつり期間中の主な催しもの**

『野点茶会』・『琴、尺八演奏会』・『市の花うめ一盆栽・書道展』『梅講座』（梅と古典を合わせて味わう）

＊日時など詳しくはお問い合わせください。

また、2月5日(水)～21日(金)の平日に限り、10:00～11:30の間、園内売店で先着100名様にくず湯を無料サービスしますのでご利用ください。



『第9回梅まつり』より

## ☆プラネタリウム新番組のご案内☆

### 宇宙の放浪者 〝彗星〟
### ～ヘール・ボップ彗星来たる！～

〈投影期間：1月12日(日)～4月6日(日)〉

'96年の3月末に話題となった百武彗星よりも明るくなると予想されるヘール・ボップ彗星がただ今地球に接近中です。今回の番組では彗星という天体の正体を探りながら、ヘール・ボップ彗星の最新情報もお伝えいたします。

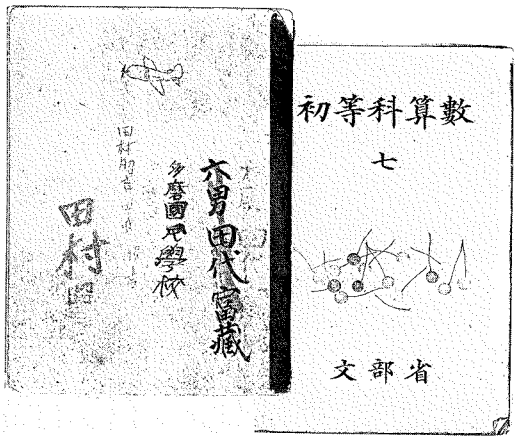
### 全天周映画 「映像詩 富士」

〈投影期間：1月5日(日)～6月8日(日)〉

雲海に浮かぶ富士の姿や厳冬期の山頂、山麓に見られる四季の自然などをとらえた映像がドームスクリーンいっぱいに広がります。

※一般番組と全天周映画は別時間の投影です。

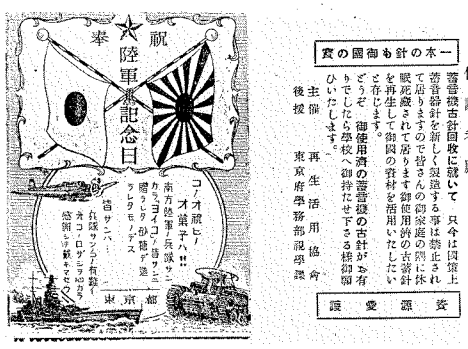
# 講座　地域から見る　教　育　史　その3



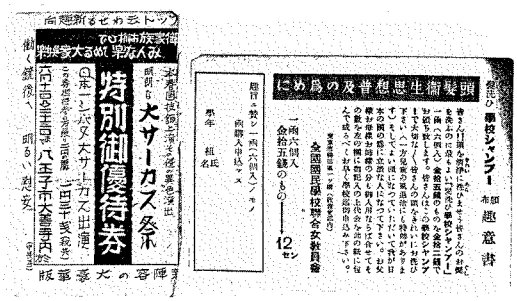

## ＝教科書の署名から＝

今回はまず、教科書の裏表紙の署名から注目。「多磨国民学校」の名は、使用者の通っていた学校に違いありませんが、若い人には聞き慣れない言葉ですね。実は、昭和16年(1941)の4月から全国の尋常・高等小学校は、国民学校と名前が改められ、「皇国民」としての訓練を受ける場と位置付けられることになったのです。同じ年の12月に太平洋戦争が始められることと無関係ではありません。現・府中市域でも、府中・多磨・西府の3つの国民学校が誕生します。教科書の名前も内容も変わりました。

写真の教科書は『初等科算数』七。各学年前期・後期1冊ずつで1・2年生は『カズノホン』と言ったので、七は6年前期用です。奥付で昭和18年10月発行というのを確認できますが、戦




戦機の落書からも、当時の雰囲気は伝わってきます。また、この時代は今みたいに教科書は無償ではなく、しかも国定教科書として全国一律の中身でしたので、兄弟、親戚、近所の友達の間で回して使われました。消してまた書いた名前は、その辺の事情を示しているようです。




## ＝国民学校の時代＝

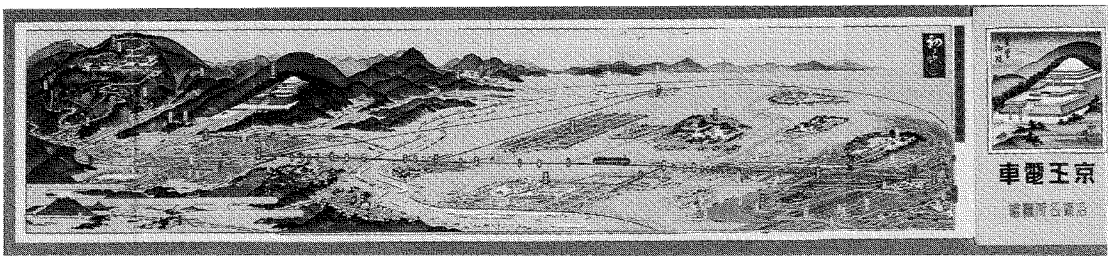
さて、そんな時代の学校生活の一端を、前回同様〝教科書に偶然挟み込んであった紙片〟から覗いて見ましょう。

『カズノホン』四から見つかったのは、陸軍記念日(3月10日)に配られた菓子のラベル。「皆サンハ…兵隊サンノコノ有難イオコヽロザシヲ心カラ感謝シテ戴キマセウ」。『小学国史』上巻からは、保護者殿への「蓄音機古針回収」の依頼書。「一本の針も御国の宝」と、武器生産のための金属回収もついにここまで。『高等小学地理書』巻二には、全国国民学校連合女教員会の呼び掛けによる「髪洗ひ学校シャンプー頒布趣意書」が。「よい頭になっていただいて我が日本の国の為に立派な人になって下さい」と。たまには娯楽も、ということで、同じ教科書には「大サーカス祭特別御優待券」も挟まっていました。「働く銃後へ明るい慰安」。場所は八王子の大善寺で、ここの秋の縁日(お十夜)は多摩地域を中心に広く知られていました。

以上は、府中市白糸台のT家からご寄贈いただいた資料の調査でわかったことです。教科書の内容サンプルの収集とは違う視点を、これからも模索していきたいと思います。　(○)

# 広報・宣伝って何？ ～郷土の森10周年を迎えて～

加藤 勇二




京王電車沿線名所図絵（昭和３年）

この資料は郷土の森博物館常設展示室の近現代コーナーに展示してある昭和３年当時の京王電車（現、京王帝都電鉄）の沿線案内図です。これは、当時の行楽地が紹介されていて、今日のものと比較するとだいぶ違っているのがうかがえます。この案内図は行楽地を紹介することによって、そこへ出かける人を鉄道で輸送することを目的につくられたもので、広報宣伝の一つの手段と考えられます。今回のノートでは、郷土の森を利用してもらうための広報・宣伝についてお話したいと思います。

府中市郷土の森がオープンして、平成９年４月で10年目を迎えます。今までの間、約333万人の方にご利用いただいています。郷土の森では博物館常設展示の公開、特別展示の企画・開催などの展示活動や歴史・考古・自然・天文などの各種講座の開講、こめっこクラブ（米づくりを中心に年中行事を体験する）などの体験学習、梅まつりや秋の縁日の森（平成６年より開催）のように郷土の森らしさを盛り込み、広いフィールドを活用した催しなど様々な事業を実施しています。そして、これらの事業を実施していくうえで色々な仕事がかかわってきます。なかでも全事業にかかわりのある広報・宣伝はとても大切なものとなります。どんなに素晴らしい内容の事業でも、広報・宣伝が悪く、多くの人に見てもらえないものは、結果として良くなかったという判断がなされます。そこで広報のポイントとなるのが何時・何を・だれに対して実施するのかということかと思います。

## １．郷土の森の広報・宣伝について

郷土の森で行なっている広報・宣伝は施設を紹介するものと事業を紹介するものに大別することができます。そして、何時、何を、だれに対し、広報するのかを考え、その結果、どのような媒体（手段）を用いるのかを選択して広報計画を立案し実施します。

郷土の森がオープンした当初の広報・宣伝としては施設及び博物館常設展示室、プラネタリウムなどを紹介することが主目的でした。広報媒体としては『広報ふちゅう』、『施設案内看板』『駅電飾看板』、『施設紹介用ポスター』など広範囲に情報が伝達できるものを使用しました。また、事業(催物)については『広報ふちゅう』での紹介と『行事案内』の配布，『事業紹介ポスター』の掲示などを行いました。このように、オープン当初は郷土の森という施設ができた事そのものが話題となり、それを中心に広報を実施しましたが、時間の経過とともにその部分が段々と薄れてきます。また、各事業も少しづつ内容が充実し、その結果、広報・宣伝の中心が施設紹介から事業紹介へと移行していきます。このことは、施設というハードの部分から内容というソフトの部分を前面にだして広報・宣伝を展開しようという考えから成り立っています。そして、現在もこの考え方に沿って広報・宣伝活動を行っています。

## 2．広報媒体（手段）について

次に広報・宣伝を実施するうえで重要な広報媒体についてですが、これは広報する内容によって異なります。そして、媒体には有料と無料が存在します。

郷土の森で使用している有料媒体の代表的なものにポスター掲出があります。これは不特定多数の対象に情報を伝えることができ、掲出地域も選択できるという利点を持っています。そして掲出する場所によってポスターのサイズ・情報量に変化を与え、より効果的に広報・宣伝ができます。

無料媒体にはあらゆるものがありますが、代表的なものとしてはパブリック・リリースが挙げられます。これは郷土の森の事業などが記事やニュースとして紹介されることを目的に報道機関などへ情報を送付することで、郷土の森の広報には欠かせないものとなっています。ただこれはあくまでも先方に記事を書いてもらうことになるので、こちらの都合どおりにならないことが多々あります。そこで、これをより確実なものにするためには広報担当者と各報道機関担当者とのネットワークが重要となります。そして、その広さが広報担当者の存在価値につながるのではないでしょうか。

京王線車内吊りポスターより

## 3．今後の広報・宣伝展開について

最近の情勢から判断すると、景気低迷に伴い民間企業では広報・宣伝費を削減する傾向がありますが、郷土の森でも同じ傾向にあります。これからの広報・宣伝はこの状況を踏まえながら展開しなければならないと考えています。そこで郷土の森では７年位前より京王沿線にある他の施設と共同で広報活動を実施し、少ない費用でより効果のあるものを追求しています。今後についてもこの考え方を基本に展開したいと思っています。そして、それを実施するうえで必要なものが担当者同士のネットワークではないでしょうか。この範囲が広ければ広い程、広報・宣伝があらゆる方面に展開でき、広報したい内容に対し適切な手段がとれると思います。そして、催物などを開催した際にアンケート調査などを行い、実施した広報、宣伝について、どの程度の反響があったのかを分析し、その結果を次回に反映させて、より良い広報ができるように努力しなければいけないと考えています。

色々とおはなししてきましたが、広報においては目的意識をはっきりさせ、その目的を達成するためにあらゆる手法を考え、その中から実現可能なものを選択して計画・実施することが必要かと思います。そしてその根底にはあらゆるネットワークを駆使して情報を収拾し、それを活用するおもしろさが存在しているのです。

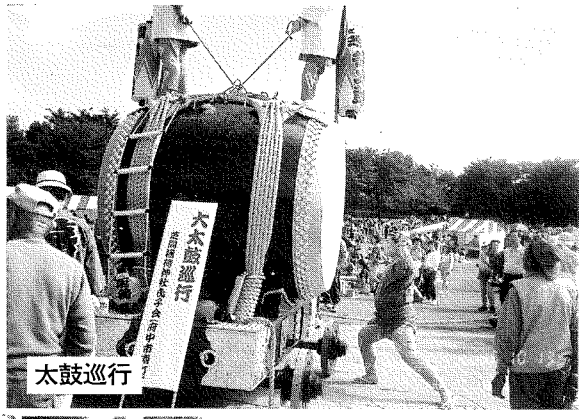
『京王沿線施設合同広報』の催物案内

# カメラアングル

## 特集 第3回 郷土芸能と 縁日の森

10月10日・12日・13日

前年度の「縁日の森」は〝職人の技〟を中心に紹介しました。今年のテーマは〝郷土芸能〟。芝間太鼓巡行の重厚な轟き、負けじと乱れ打ちならされる武蔵国府太鼓の力強さ、谷保天満宮の伝統的な獅子舞、あわせて景気の良い調子を奏でる府中囃子など、界隈の郷土芸能が3日間に集結しました。もちろん、多摩の職人さんたちの様々な技術もさえわたっていたようです。




太鼓巡行

府中囃子

国府太鼓

獅子舞

唱歌のつどい

## 特別展 江戸の粋 —柄鏡— 9月21日～10月27日

市内在住、大室政右氏によるコレクションを紹介しました。鏡の背面に描かれた様々な文様や図柄に、観覧者も思わず圧倒!!

# 鎌倉時代の甕棺墓

## 最近の発掘調査

宮町1丁目マンション地区から

塚原二郎

人の〝死〟に対しての思いは、いつの時代でも変わらず、尊厳の念をいだいていました。人々は様々な墓を営み、とりわけ遺体を埋葬する部分や墓標を大切にしていました。府中市内でも縄文時代から近世に至る各時代の墓が発掘調査されていますが、その形は様々で、土壙墓（どこうぼ）と呼ばれる人を直接地面に埋葬したものや、火葬をした骨を小さな甕（かめ）に入れたもの、地面の中に地下室を設けそこへ埋葬したもの、河原石を積み上げ部屋を作りさらにそれに盛土をした古墳などがあります。

今回紹介する墓は、宮町１丁目のマンション建設予定地で見つかったものです。この墓は、調査地区のほぼ中央にあり、これを東西約12m、南北約11mの方形状に溝が取り囲んでいました。丸い穴に「大甕」がすっぽりと納められ、さらにその甕の上には河原石がたくさん積まれていました。甕は愛知県の常滑（とこなめ）地方で焼かれたもので、鎌倉時代から南北朝時代のものと考えられます。非常に大きく、口縁部の直径は約60cm、胴部の最大径は約90cmでした。その中からは人骨が見つかり、「甕棺墓（かめかんぼ）」と呼ぶべき墓であることがわかりました。残念ながら大甕の上に積まれていた河原石が中に落ちていたため、骨は割れたり砕けてしまいましたが、頭蓋骨（ずがい）・大腿骨（だいたい）などの主なものが残っていて、概ね１体分であることも確認できました。

この甕棺墓を囲む溝は、約30cm前後の幅で、確認された深さは約10cmでした。実際には、当時の地面はもっと高い位置にあったので、幅も深さももう少し大きなものであったと考えられます。

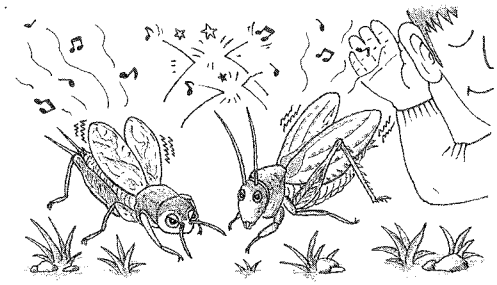
この溝の内側には、甕棺墓を囲むように土壙墓が10数基見つかっています。土壙墓とこの甕との重複関係や土壙墓の出土品から、土壙墓はすべてこの大甕より新しいものであることがわかりました。おそらく、最初に甕棺墓が営まれ、これを中心にその後土壙墓が造られていったのでしょう。甕棺墓を含む複数の土壙墓は溝で区画されるエリアの中にあることから、当時このエリアは墓地として利用されていたことが明らかです。中世の絵巻には土饅頭（どまんじゅう）状の高まりに五輪塔などが置かれている墓が描かれていますが、付近からは石塔の一部や板碑の破片も見つかっていますので、おそらくこの墓もそれに似た景観であったと考えられます。

中世の府中にかかわる文献史料は非常に少なく、当時の町並みを文献史料から推測することはできません。ここで紹介した調査区の周辺では、これまでに竪穴状遺構や井戸、方形にめぐる溝など中世の遺構や遺物が比較的多く見つかっていて、徐々に土地利用の様子が把握できるようになってきました。発掘調査は、縄文時代のような大昔のくらしや奈良・平安時代の国府ばかりでなく、中世府中の実態解明にも大きな役割を果たすはずです。

## あれこれ　虫の声の話

先日、「秋の河原に昆虫を求めて」といった内容の自然観察会を行いました。郷土の森の南縁に沿って流れる、多摩川の土手や河原に降りて、昆虫を探しながら歩くプログラムです。観察会は午前中に実施されることから、主役になる昆虫はバッタ類になるだろうと考えていました。秋の鳴く虫は、やはり夜にならないと観察会の対象には難しいものと判断していたからです。ところで実際に河原を散策してみると、偶然かも知れませんが、意外にも虫の声が聞こえてきたのです。何だかとてもうれしくなってきたことを覚えています。

一般に鳴く虫と呼ばれるものは、コオロギやキリギリスの仲間をさしますが、理由は声の美しく聞こえる種類が多いからだと思われます。特に夜鳴くコオロギ類の声は、とても哀愁をおびていて、ああ秋が来たなと人々に季節感を感じさせてくれます。日本人はここらあたりの情緒が大変気に入っている民族で、すでに江戸時代の頃から、飼育したスズムシを売る商売（虫売り）があったと聞いています。



冬の厳しい寒さを前に、徐々に弱まっていく虫の音にものの哀れを感じていたのでしょうか。

さて鳴く虫とはいうものの、本当に口から声を発するわけではありません。体のどこかをこすり合わせたり、振動させたりして音を出すのです。この種の昆虫は先述のように、ほとんどがキリギリス類とコオロギ類に分けられ、キリギリスを代表にウマオイ・クツワムシ、コオロギ類に分類されるスズムシ・マツムシ・カンタンなど、皆さんお馴染みの名前が連なります。

両者はどちらも、雄の前翅に響きの良い楽器を発達させています。これはヴァイオリンのような構造で、弦に相当するのは前翅にある特殊化した翅脈の下面で、ヤスリ状になっているものです。そして反対側の翅の後縁部にヤスリをこする部分があり、これが弓に相当します。この弦と弓をこすり合わせると、見事な音色が生み出されるのです。

鳴く声は多くの場合、仲間同士のコミュニケーションに使うか、危険が迫った時の威嚇として音を出すものと考えられています。たとえばエンマコオロギでは、その鳴き方に３種類あることが知られています。第一は本鳴き、あるいは呼び鳴きといい、雄が縄張りを守る時や、懸命に雌を呼ぶ時の鳴き声です。第二は口説き鳴きといい、雌が傍に来た時に誘う鳴き方です。この口説き鳴きは、昼盛んに行われ、夜は呼び鳴きのみをするという報告もあります。いずれにしても、鳴く虫の声は夜でなければ聞こえないという、前述の観念はおかしいようです。

残る一つは脅し鳴き。雄同士のけんかの時に発する声で、戦いの雄叫びのようなものです。また、当館の常設展示でも紹介しているカワラエンマコオロギのように、同じエンマコオロギのグループに属するエゾエンマコオロギとは同種でありながら、もともとのエゾエンマコオロギとは鳴き方のリズムを、河原という環境下でのみ変えている大変珍しい例もあります。

河原は鳴く虫の宝庫です。長きに渡ってその美しい音色は、私たちに季節の訪れと、心のやすらぎを与え続けてきました。永遠にこの秋のメロディーを楽しみたいのであれば、河原の環境を守り続けることこそ、その必須条件であることに間違いはないでしょう。　（N）


あるむぜお　第38号

al museo　イタリア語
"博物館で"　"博物館にて"の意

発行日　1996年12月20日

発行　(財)府中文化振興財団
府中市郷土の森
〒183 東京都府中市南町6-32
☎0423-68-7921